

膵癌膵切除における栄養状態が予後に及ぼす影響に関する検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年6月15日～2021年12月31日

〔研究課題〕

膵癌膵切除における栄養状態が予後に及ぼす影響に関する検討

〔研究目的〕

膵癌は診断法・治療法の進歩により予後は改善してきていますが、未だ最も予後不良な癌腫の一つです。様々な予後規定因子が報告されており、患者因子も大きく予後に関与していると考えられます。近年、癌患者のサルコペニアが注目されており、種々の癌腫で予後との相関が報告されていますが、膵癌に対する外科切除術後合併症や生存に関する報告は少ないです。本研究では膵癌膵切除症例を対象に臨床病理学的因子を収集し、生存分析および多変量解析により、各種栄養指標が短期および長期成績に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

膵癌はいまだに長期生存や根治が難しいのが現状です。予後については癌の進行度は殊更、患者様の栄養状態なども大きくかかわっていると考えられます。様々な指標で患者様の栄養状態を評価し、予後との相関を検証することで、短期および長期成績に寄与すると考えられます。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属病院にて2010年1月から2020年3月の間に、手術を行った膵癌173例(うち膵切除を行った症例166例)を対象とします。膵切除症例で栄養状態良好例と栄養状態不良例の予後を統計学的手法を用いて比較します。また、膵切除することで栄養状態にどのような影響を与えるかについても検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で患者様のデータを取り扱う際は、個人情報保護に十分配慮します。研究の成果を公表する場合は、患者様を特定できる情報を含まないようにし、本研究の以外の目的で患者様のデータを使用することはありません。10年保管後に破棄します。本学患者様がデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します。

〔その他〕

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者様に費用負担および健康被害は生じません

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 帝京大学医学部外科学講座 佐野圭二 教授

研究分担者： 帝京大学医学部附属病院 豊田啓恵 シニアレジデント

住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) 〔内線 7631 〕